

大目標 3 歯とお口の健康づくりを推進します

中目標 (1)

【乳幼児期】 歯みがきや噛む習慣を身につけ、
むし歯のない健康なお口を育てます

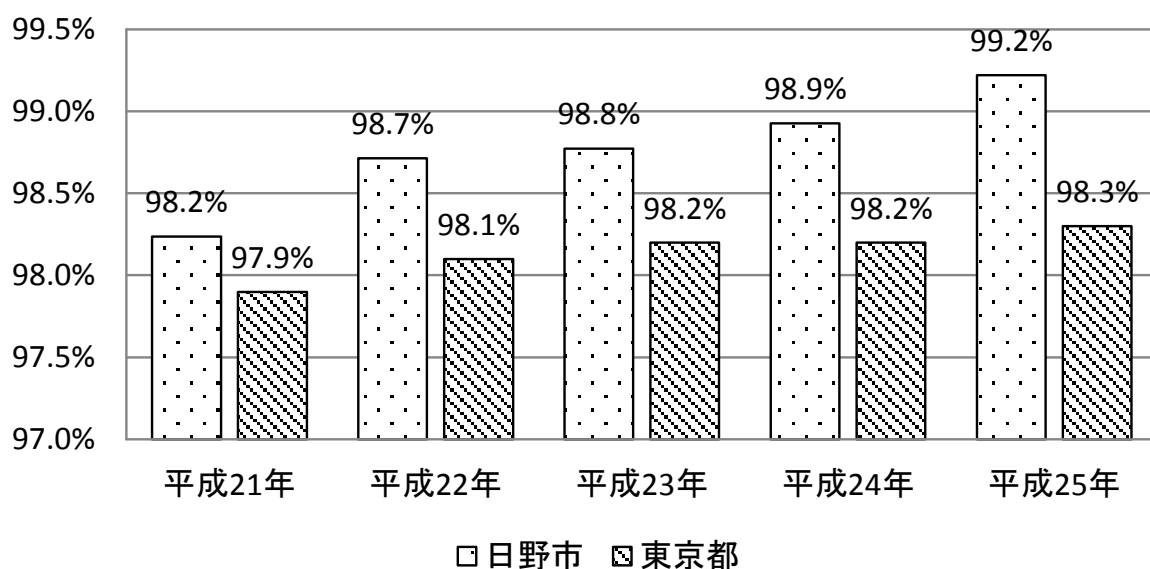
1

市の現状・課題

1. むし歯予防の推進

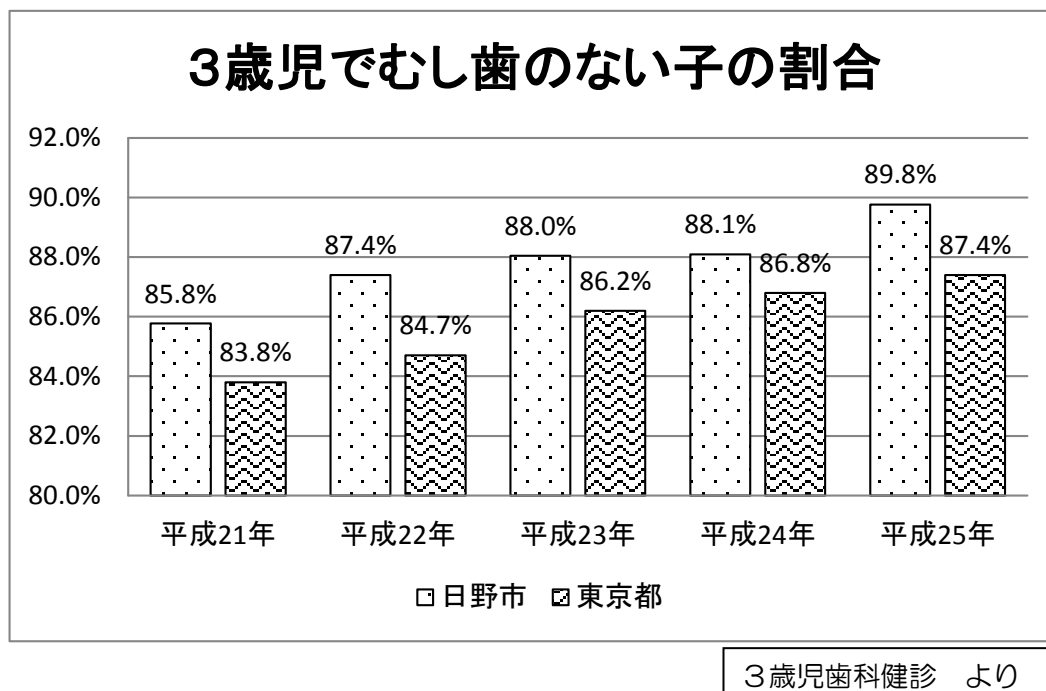
1歳6か月児でむし歯のない子どもの割合は99.2%（平成25年）、3歳児健診でむし歯のない子どもは89.8%（平成25年）であり、むし歯のない子どもが年々増加しています。

1歳6か月児でむし歯のない子の割合



1歳6か月児歯科健診 より

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

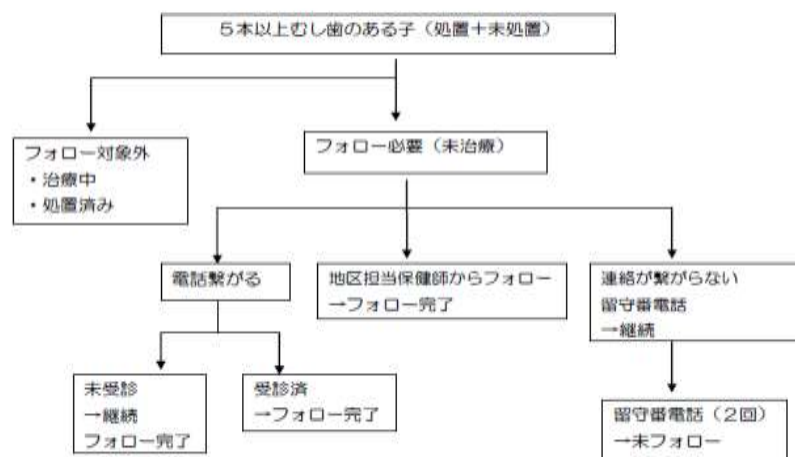


むし歯のない子どもは増えていますが、少数とはいえむし歯が多い子どももいます。第2期「日野人げんき！」プランでは平成23年度からの取り組みとして、歯科健診の結果、むし歯が5本以上ある子どもをむし歯のハイリスク児とし、電話連絡等で歯科治療を行ったかどうか確認および助言を行っています。多数歯むし歯のある子どもは歯の問題にとどまらず、育児全般に問題が生じている可能性があるため、他部署と連携し生活全体をとおした総合的な支援が必要です。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

5本むし歯フォローについて

歯科健診（1歳6か月児歯科健診、3歳児歯科健診）の結果で、ハイリスク児（むし歯5本以上）に対し、歯科衛生士が電話連絡等で歯科治療したかどうかの確認及び相談・助言を行っている。
※第2期げんきプランでは目標値 平成27年度90%



<現状>

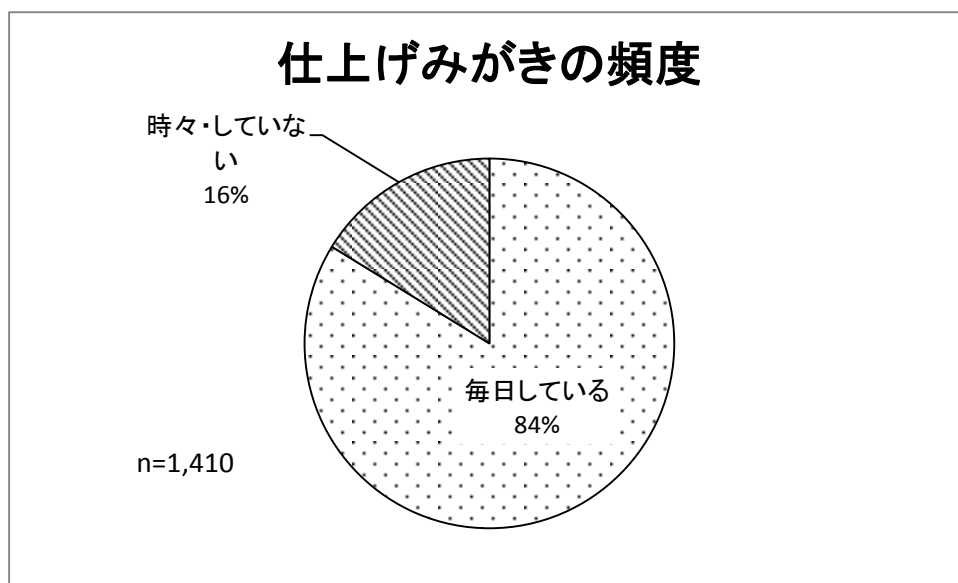
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1歳6か月児健診	2	0	0
3歳児健診	23	26	23
合計	25	26	23
フォロー対象数（フォロー必要）	25	12	18
フォロー数	17	8	13
フォロー率	68%	67%	72%

また、乳歯のむし歯は、重度になると今後生えてくる永久歯の質や歯並びなどにも影響を与えます。むし歯が5本以上ある子どもだけではなく、むし歯がある子ども全員を支援することで、乳幼児期以降も口腔状態を健康に維持することができます。むし歯予防から育児支援を行っていくためにも、よりきめ細かい支援体制を構築することが重要です。

2. 保護者に対する知識の普及・啓発

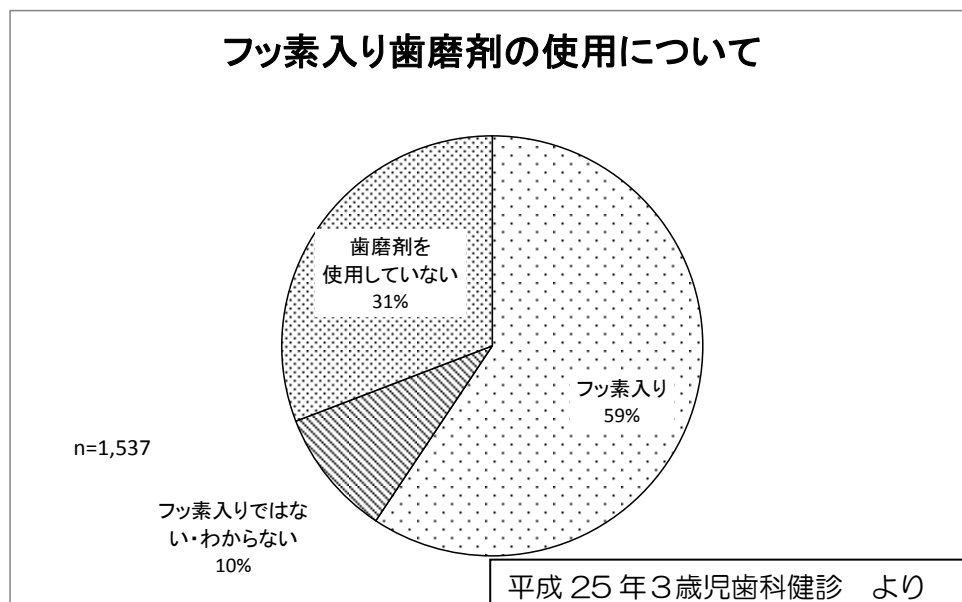
1歳6か月児歯科健診時で毎日仕上げみがきを行っている保護者は平成25年度84%います。この頃は、子ども自身で十分に磨けないため、保護者による毎日の仕上げ磨きが大切です。保護者による仕上げ磨きは、小学校を卒業するまでは必要であり、乳歯の頃からの口腔ケアが永久歯の形成や歯並びにも影響を与えます。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します



平成 25 年 1 歳 6 か月児歯科健診 より

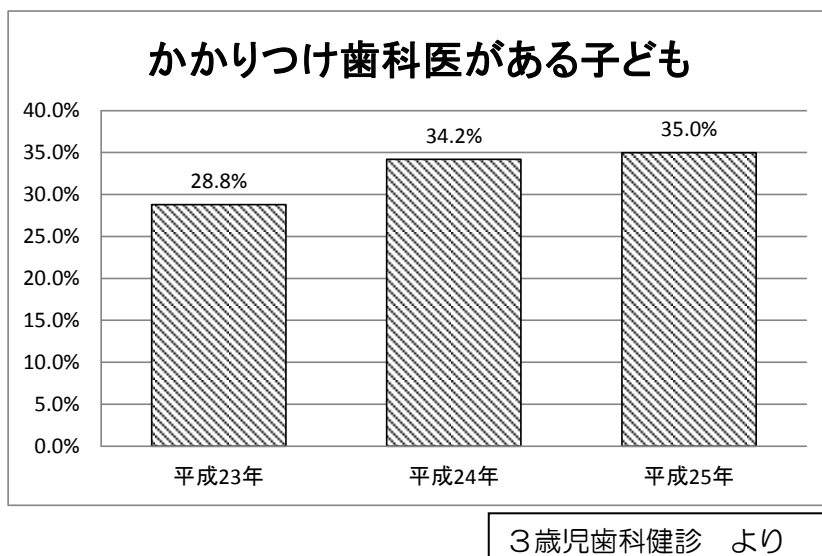
3歳児歯科健診時にフッ化物配合歯磨剤を意識して選択し、使用している保護者は59%いました。フッ化物には、歯の質を強くするだけでなく、プラーク（歯垢）細菌の働きを弱めることができます。また、歯磨剤だけではなく、洗口剤や歯面に塗布する方法などがあります。フッ化物の有効性や安全性については WHO（世界保健機構）や FDI（世界歯科連盟）も利用を推奨しており、むし歯予防において効果的です。フッ化物の有効性や安全性について情報発信していくことが重要です。



平成 25 年 3 歳児歯科健診 より

3歳児歯科健診時にかかりつけ歯科医を決めている子どもは、平成 23 年度で28.8%ですが平成 25 年度では35%と増加傾向にあります。

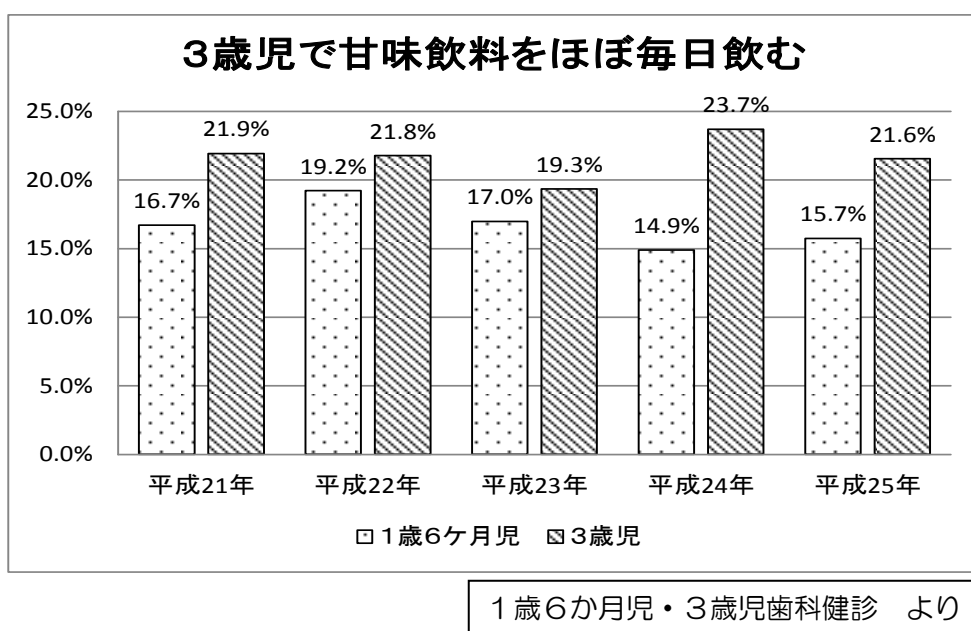
大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します



子どものお口の健康を維持するためには、かかりつけ歯科医による定期検診や、保護者が意識してフッ素を選択することが子どもの健康を考えることにつながります。乳幼児期から正しい生活習慣を確立することは、学齢期における適切な生活習慣の基盤をつくるためにも重要となります。

3. 食育の推進

1歳6か月児で甘味飲料をほぼ毎日飲んでいる子は15.7%（平成25年）ですが、3歳児になると21.6%（平成25年）となり約2割のお子さんに毎日飲む習慣があります。甘味飲料は頻度が多いほどむし歯のリスクが高くなることが明らかになっています。摂取頻度や時間を決めて摂取するなどリスクの低減を目指し、むし歯になりにくい生活習慣に改善することが重要です。



大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

乳幼児期においてむし歯予防も重要ですが、噛めない、飲めない、丸のみなど食べることに問題のある子どももいます。「噛む」ことは、顎の発達や肥満の防止など様々な効果があります。「噛む」習慣は生まれつき備わっているものではなく、成長していく中で訓練されていくものです。離乳食の時期から、噛む力を育てることを普及・啓発していくことが大切となります。

2

今後の取り組み

1. 健診を通してむし歯予防を推進し、むし歯のある子どもを取り巻く生活全般について支援します。
2. 保護者が子どもの口腔の健康を維持するための知識、かかりつけ歯科医の重要性について普及・啓発します。
3. 自分の口で噛み飲み込む習慣について普及・啓発します。

3

数値目標（健康指標）

事業 No	取り組み内容	開始時	年次計画（平成 28-32 年度）				
			28	29	30	31	32
1	1歳6か月児でむし歯のある子どもの歯科受診を支援します	—	100%	100%	100%	100%	100%
2	3歳児でむし歯のある子どもの歯科受診を支援します	—	70%	80%	90%	95%	100%
3	ハイリスク児の歯科受診を支援します	—	100%	100%	100%	100%	100%
4	3歳児で仕上げみがきを毎日実施している保護者の割合	— ※1	100%	100%	100%	100%	100%
5	3歳児でフッ素（歯磨き剤等）を使用して口腔ケアを行う保護者の割合	— ※2	67%	70%	73%	77%	80%

※1 平成 26 年度に 1 歳 6 か月児で毎日仕上げみがきを実施している保護者は 85%

※2 平成 26 年度に 3 歳児でフッ化物配合歯磨剤を選択し使用している保護者は 63%

4

中目標の評価方法

1. 1歳6か月児歯科健診でむし歯のあった子どもの歯科受診を支援した割合。
2. 3歳児歯科健診でむし歯のあった子どもの歯科受診を支援した割合。
3. ハイリスク児の歯科受診を支援した割合。
※ハイリスク児とは、どこの機関ともつながらず育児に問題が生じている可能性のある子どものことと再定義します。保健師と連携し生活全体をとおした総合的な支援を実施します。
4. 3歳児歯科健診アンケートの設問で、保護者が子どもに対して毎日仕上げみがきをしている保護者の割合。
5. 3歳児歯科健診アンケートの設問で、口腔ケアを実施する際にフッ素（歯磨き剤等）を使用している保護者の割合。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

中目標 (2)

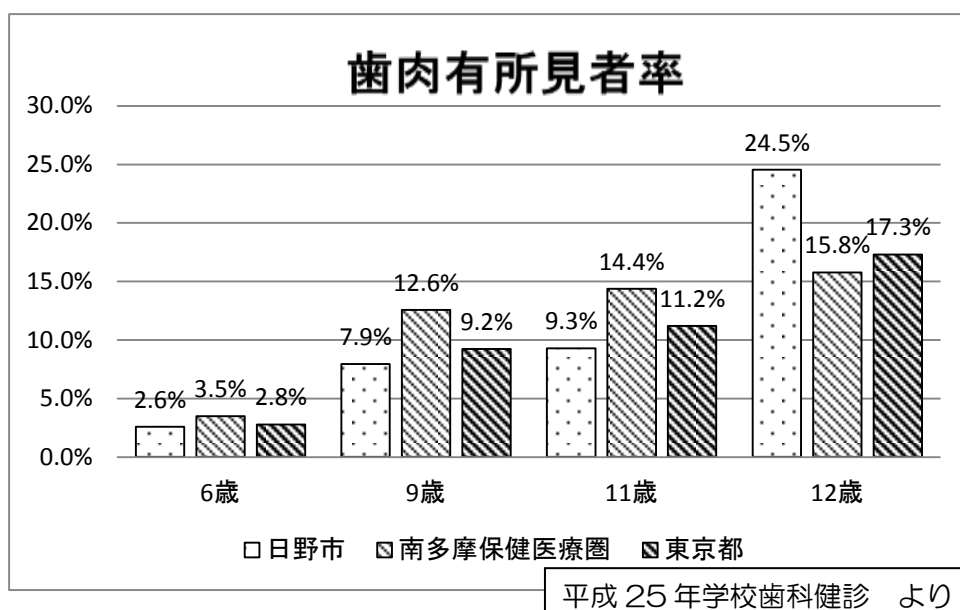
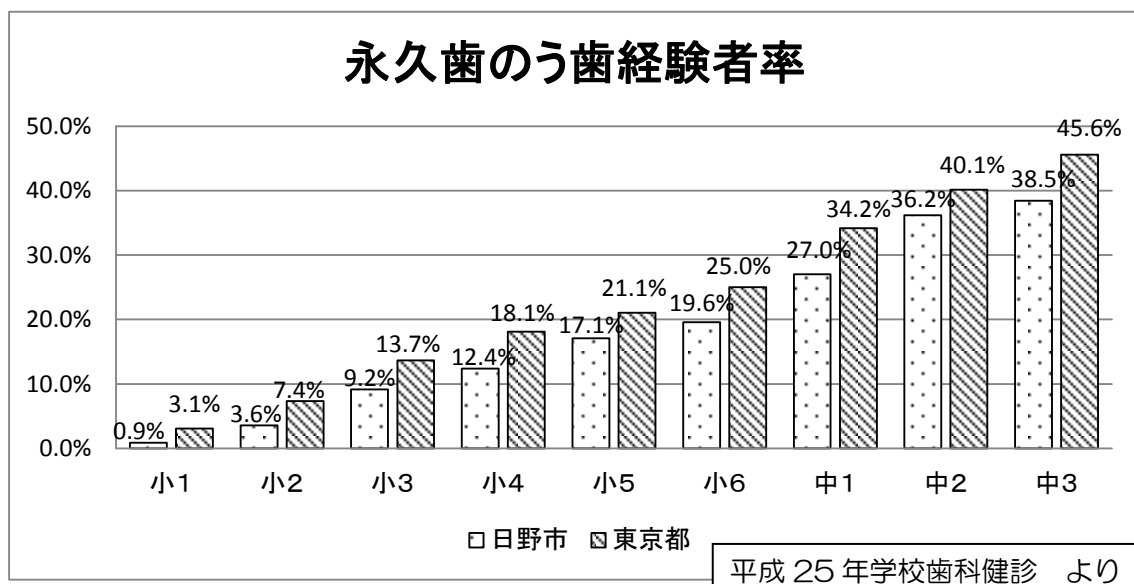
【学齢期】歯とお口の健康づくりの基礎をつくり、
むし歯と歯周病を予防します

1

市の現状・課題

1. むし歯や歯周病予防の推進

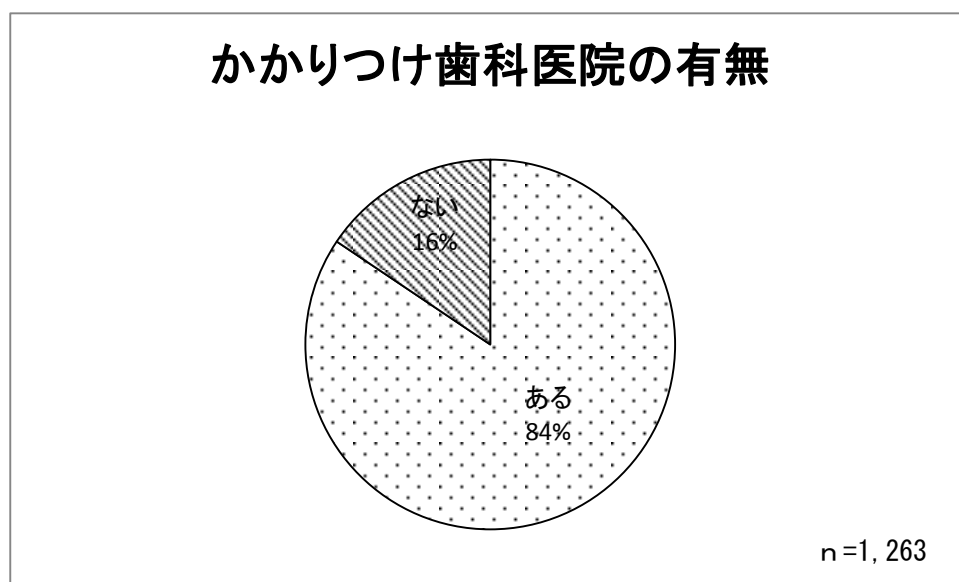
日野市の永久歯がむし歯になったことのある子どもの割合は、東京都と比較し小学校1年生から中学校3年生まで低くあります。歯肉炎に関しては、11歳までは東京都と南多摩医療圏域と比較し低くありますが、12歳になると24.5%と高い割合になります。



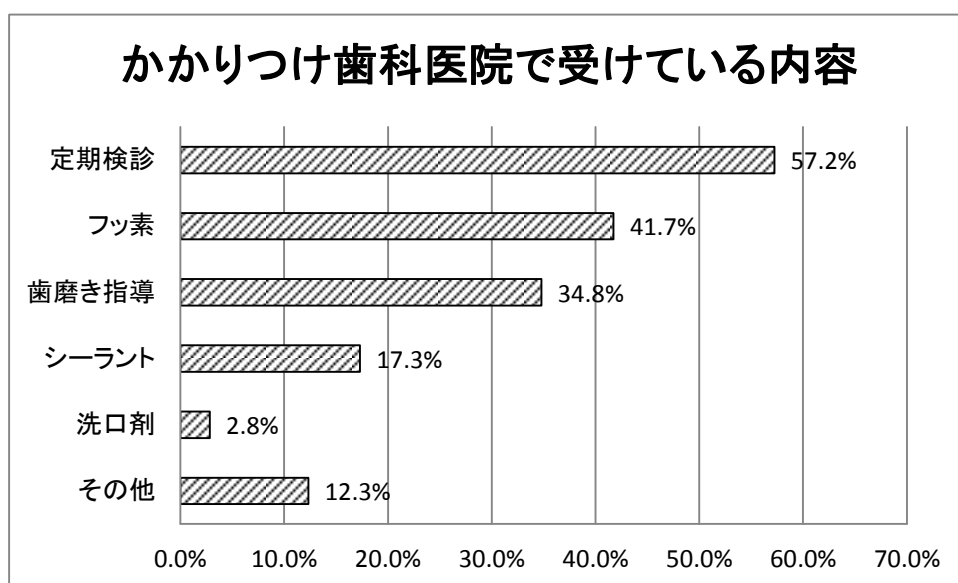
大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

口腔内の状態を良好に維持していくには、子どもが関心のあることを題材に健康教育していくことが有効となります。

小学校4年生意識調査アンケートでは、84%の子どもがかかりつけ歯科医を持っています。しかし、かかりつけ歯科医で定期検診を受診している子どもは57.2%と低くあります。



小学校4年生歯科意識調査アンケート より



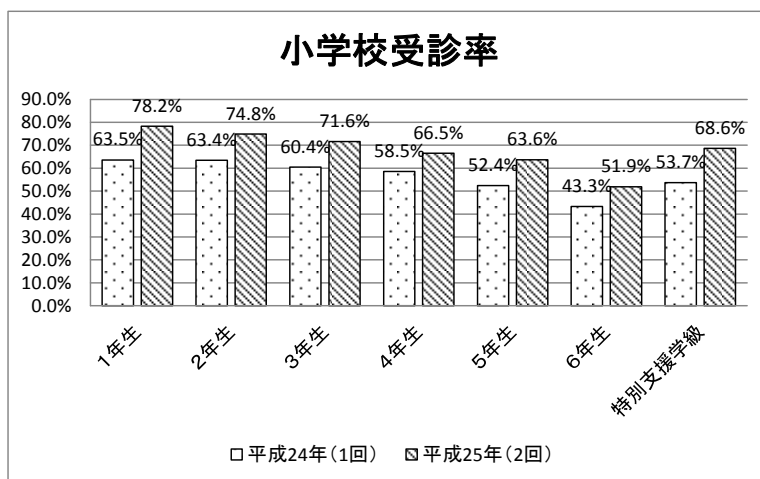
小学校4年生歯科意識調査アンケート より

学齢期から成人期の間は、生活環境の変化に伴いむし歯だけではなく歯周病のリスクも高まる時期です。学齢期からかかりつけ歯科医を持ち、むし歯予防や歯肉炎予防だけではなく、成人期以降の自立した健康づくりにつなげていくことが重要です。

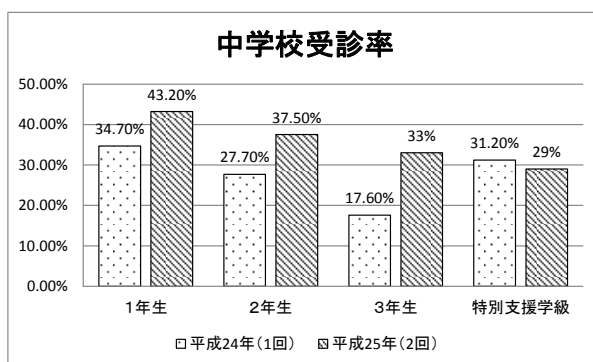
大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

2. 児童・生徒・保護者に対する知識の普及・啓発

日野市の小中学校では学校歯科健康診断後に歯科医院を受診する必要がある子どもに対し、治療勧告用紙を1回配布しています。平成25年度は、10月頃に歯科医院を未受診の子どもに対し2回目の治療勧告用紙を配布しました。その結果、小中学校では、ほぼ全ての学年で10%前後受診率が上がりました。しかし、中学校は受診率が向上したもののどの学年も半数以上が未受診のままです。



	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級
平成24年(1回)	63.5%	63.4%	60.4%	58.5%	52.4%	43.3%	53.7%
平成25年(2回)	78.2%	74.8%	71.6%	66.5%	63.6%	51.9%	68.6%



	1年生	2年生	3年生	特別支援学級
平成24年(1回)	34.7%	27.7%	17.6%	31.2%
平成25年(2回)	43.2%	37.5%	33.0%	29.0%

保護者に対し保護者会やメールでの連絡など、学校と保護者の連携が子どもの口腔を健康に維持していくために重要となります。

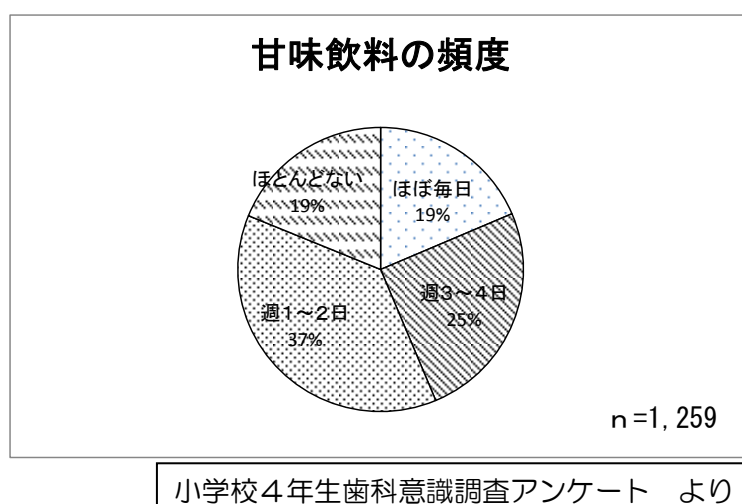
また、学校と学校歯科医の連携をより強化し推進していくことが歯科保健教育の充実につながっていきます。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

3. 歯磨き習慣の定着、正しい食生活の育成

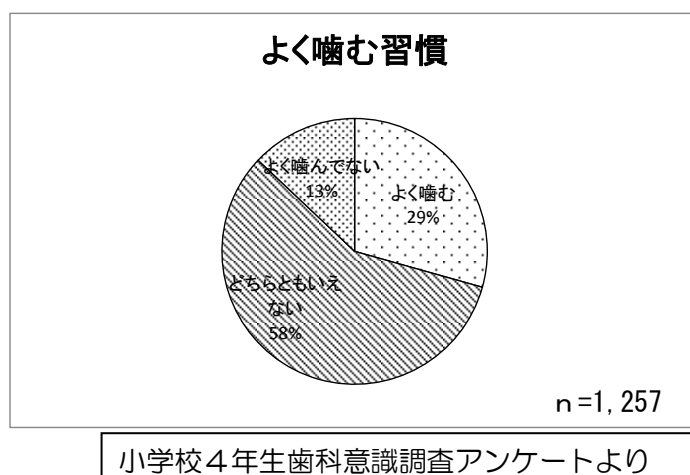
小学校4年生歯科意識調査アンケートによると、約2割の子どもが「ほぼ毎日」、「週3～4日」と合わせると約4割は甘い飲み物を週3回以上飲んでいることになります。甘い飲料やイオン飲料の飲み方は、むし歯のリスクを高めるだけではなく生活習慣病のリスクもあります。

学齢期は、家庭や学校を中心とした生活の中で正しい食生活の基盤をつくる時期であり、この時期に形成された食生活習慣は成人期以降にも影響を与えるため重要となります。



また、噛む習慣があるか聞いたところ 29%の子どもが「よく噛む」と答え、「どちらともいえない」と回答する者が最も多くあります。

この時期は永久歯への生え変わりの時期でもあるため、食物を噛みにくい時期でもあります。しかし、正しく噛む習慣を育成することは、顎の成長発達を促し、早食いなどの『食べ方』が引き起こす肥満を予防することにつながります。学齢期に歯科保健教育の中でも『食べ方』について教育することが、成人期の生活習慣病予防につながります。



大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

学齢期は全てのライフステージにおいて歯科保健教育を受ける機会が多く、最も情報を得ることができる時期でもあります。自身で選択し意思決定するには正しい知識が必要でありこの時期の歯科保健教育が重要となります。

2

今後の取り組み

1. むし歯や歯肉炎予防を推進し、かかりつけ歯科医の重要性について普及・啓発します。
2. 保護者・学校・学校歯科医との連携をより強化し、歯科保健教育の充実を図ります。
3. 学校歯科検診結果時に要治療の子どもの受診率を向上します。

3

数値目標（健康指標）

事業 No	取り組み内容	開始時	年次計画（平成 28-32 年度）				
			28	29	30	31	32
1	12歳（小学校6年生）で永久歯にむし歯経験がない子どもの割合	79% (H26)	80%	81%	82%	83%	85%
2	中学校1年生で要治療者となった子どもが歯科医院を受診した割合	40% (H25)	45%	50%	55%	60%	65%

4

中目標の評価方法

1. 12歳（小学校6年生）の学校歯科健診結果にある永久歯のう歯経験者の割合。
2. 学校歯科検診結果時に要治療の子どもに対し受診勧奨し、その後の歯科医院の受診（治療）率。

大目標 3 歯とお口の健康づくりを推進します

中目標 (3)

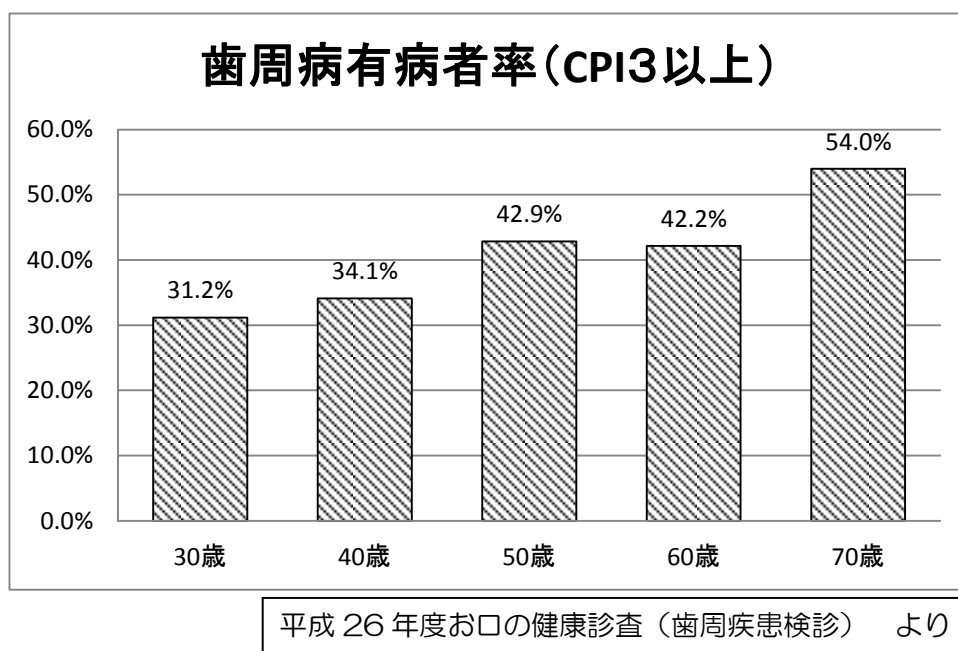
【成人期】かかりつけ歯科医で定期的に検診を受診し、自己管理方法を習得することでお口の健康および全身の健康を守ります

1

市の現状・課題

1. 歯周疾患及び歯の喪失予防の推進

日野市の歯周病有病者率は、年齢があがるにつれ増加しており、30歳では約3割、70歳になると半数以上の方が歯周病に罹患しています。



大目標 3 歯とお口の健康づくりを推進します

歯周病は、若いうちから徐々に進行していく病気のため、早い段階で発見し予防することが重要となります。歯周病を予防するためにも、かかりつけ歯科医を持ち定期的に検診を受け、口腔状態を管理していくことが大切です。

また、日野市では歯周病の予防及びかかりつけ歯科医の定着を図るために、お口の健康診査（歯周疾患検診）を実施しています。平成 27 年度は、さらなるかかりつけ歯科医の定着を図るため 10 歳刻みから 5 歳刻みに対象者を拡大しました。受診率も 9% 前後から 12% と大きく上がりました。

お口の健康診査（歯周疾患検診）（事業開始：平成 12 年度～）

歯周病による歯の喪失を予防するため、また、かかりつけ歯科医の定着を図るため、市内の指定歯科医療機関において歯周疾患検診を実施

実施期間 平成27年7月1日～12月26日

対 象 4月1日現在 下記年齢の市民

実施方法 対象者全員に勧奨通知を送付 日野市歯科医会に事業を委託

実施状況

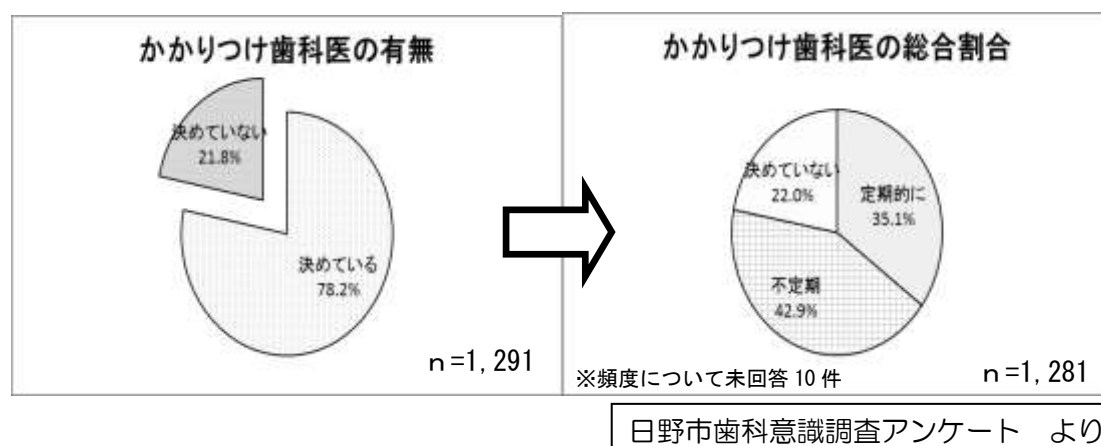
年 度	区 分	受 診 者 数 (人)	対 象 者 数 (人)	受 診 率 (%)	対 象（22年度のみ30歳は実施せず）
22		833	9,759	8.54	40歳・50歳・60歳・70歳
23		1,000	11,973	8.35	30歳・40歳・50歳・60歳・70歳
24		1,157	12,181	9.50	30歳・40歳・50歳・60歳・70歳
25		1,056	11,940	8.84	30歳・40歳・50歳・60歳・70歳
26		1,136	12,120	9.37	30歳・40歳・50歳・60歳・70歳
27		2,669	22,052	12.1	30歳・35歳・40歳・45歳・50歳 55歳・60歳・65歳・70歳

お口の健康診査（歯周疾患検診）実績 より

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

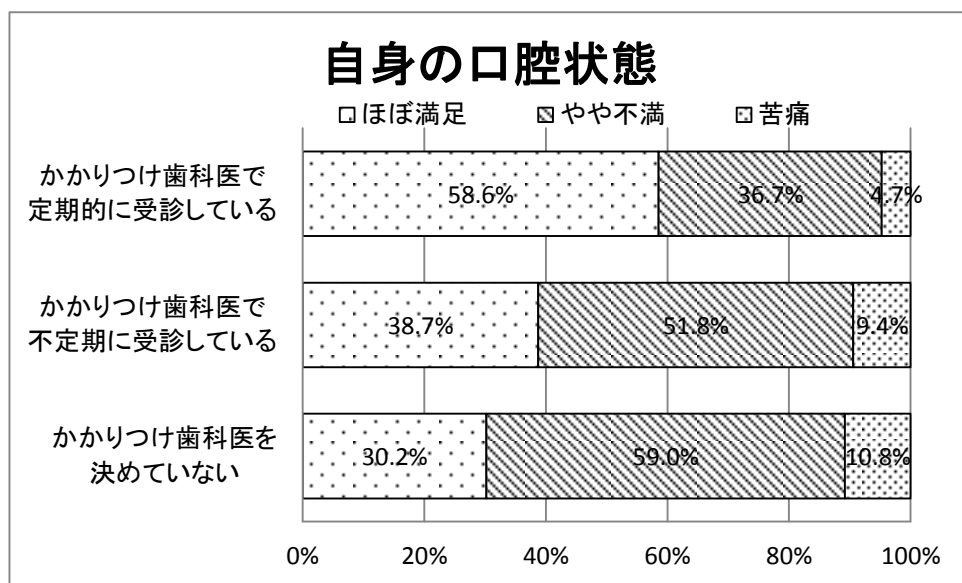
2. 歯とお口の健康の重要性についての理解の推進

日野市歯科意識調査では、かかりつけ歯科医を持っている人が78%います。しかし、口腔に異常がない時にも定期的に行く人は35%しかいません。定期的にかかりつけ歯科医で検診を受け口腔管理している人が少なく、かかりつけ歯科医の認識自体にずれが生じていることがわかります。



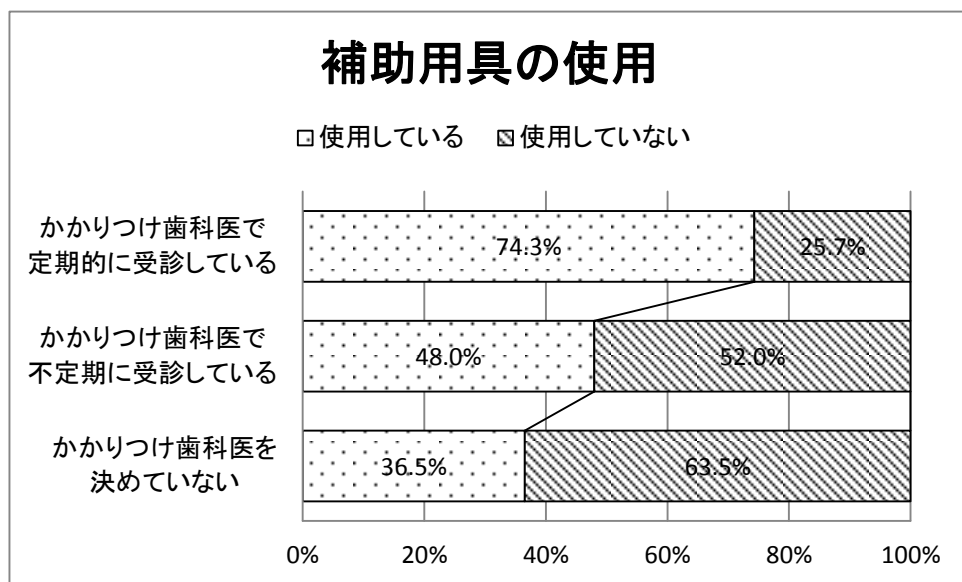
かかりつけ歯科医と自身の口腔状態の満足度の関係性については、かかりつけ歯科医を持っている人は満足度が高い状況にあります。74 ページ、自身の口腔状態のアンケートによる。さらに、かかりつけ歯科医を持っている方の中でも、歯科検診を定期的に受診している人と不定期に受診している人を比較すると、定期的に受診している人の満足度が2割高くなっています。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します



日野市歯科意識調査アンケート より

また、かかりつけ歯科医と補助用具の関連性について、かかりつけ歯科医で定期的に受診している人と不定期に受診している人を比較しました。かかりつけ歯科医で定期的に受診されている人の74%が補助用具（デンタルフロスや歯間ブラシ）を使用しています。かかりつけ歯科医を定期的に受診している人は、歯科保健行動が良好にあることがわかります。



日野市歯科意識調査アンケート より

かかりつけ歯科医を持つことで、検診による早期発見や予防だけではなく、健康意識を高め良好な歯科保健行動にもつなげています。口腔の健康を維持していくためには、

大目標 3 歯とお口の健康づくりを推進します

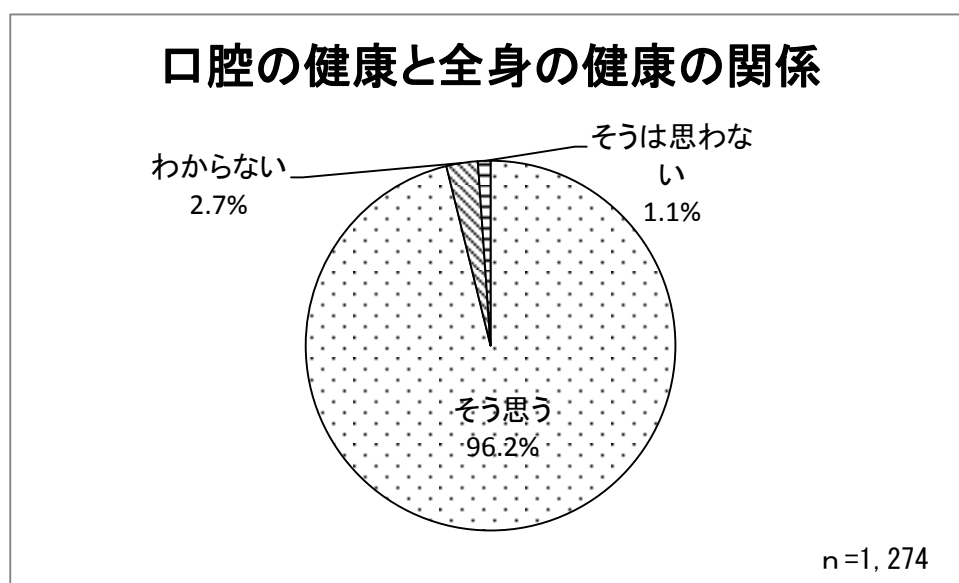
かかりつけ歯科医を持ち管理していくことが重要です。高齢になり口腔状態が悪化してしまう前に、なるべく若い世代からかかりつけ歯科医を持ち管理する必要があります。

日野市では、平成 27 年度にかかりつけ歯科医定着の推進に向けお口の健康診査（歯周疾患検診）の対象を拡大しました。今後は、さらなるかかりつけ歯科医定着を推進するために、検診時の歯科保健教育の充実など事業をより強化していく必要があります。

3. 歯周病と全身疾患の関連性についての普及啓発

歯周病は単なる口腔内だけの疾患ではなく、その原因とされるプラーク(歯垢)の中にいる細菌は糖尿病をはじめとする多くの全身疾患にも関与しています。

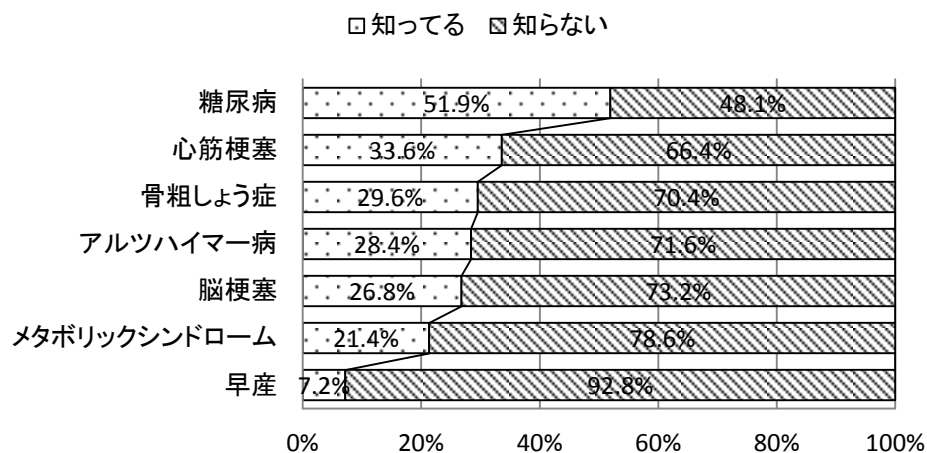
日野市歯科意識調査アンケートでは、口腔の健康と全身の健康との関係があると96%の方が思っています。しかし、歯周病と関連する疾患名までは知られていません。



日野市歯科意識調査アンケート より

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

歯周病と関連する病気



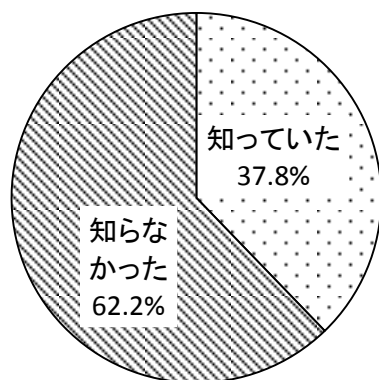
日野市歯科意識調査アンケート より

歯周病は糖尿病をはじめとした、さまざまな全身疾患との関連性があり、歯周病を予防することで全身の健康につながります。歯周病と全身疾患の関係について周知し、幅広い世代に正しく認識していただくことが重要です。

たばこに含まれる「ニコチン」や煙に含まれる「一酸化炭素」は、歯肉の血管を縮ませ十分な酸素や栄養素が供給されません。さらに、免疫機能も低下させるため歯周病にかかる危険性が高くなります。また、歯周病に罹患し治療を行っても治りにくくなります。

日野市歯科意識調査アンケートでは、タバコと歯周病の関係について知らなかった方が62%います。

タバコと歯周病



n=1,273

日野市歯科意識調査アンケート より

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

喫煙は歯周病を罹患しやすくし治癒しにくくさせるため、重大な危険因子の一つです。喫煙と全身疾患の関係について広く周知されていますが、口腔についての認知度の低さがわかります。喫煙と口腔の関係についてより一層の周知が必要です。

2 今後の取り組み

お口の健康診査を充実させていくことで、かかりつけ歯科医の定着を図ります。

1. 歯とお口の健康の重要性についての理解の推進を図ります。
2. お口の健康が全身の健康につながることを幅広い年齢層に正しく認識してもらえ
るための取り組みを実施します。

3 数値目標（健康指標）

1. 歯周疾患および歯の喪失予防の推進

事業 No	取り組み内容	開始時	年次計画（平成 28-32 年度）				
			28	29	30	31	32
1	お口の健康診査（歯周病検診） の受診率を上げます。	9.4% (H26)	14%	14.5%	15%	15.5%	16%
2	お口の健康診査（歯周病検診） を受診した方のかかりつけ歯 科医の定着率を上げます。	—	—	—	60%	—	70%

4 中目標の評価方法

1. 歯周疾患検診の受診率で評価します。
2. 歯周疾患検診受診者に対しアンケートを実施します。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

中目標 (4)

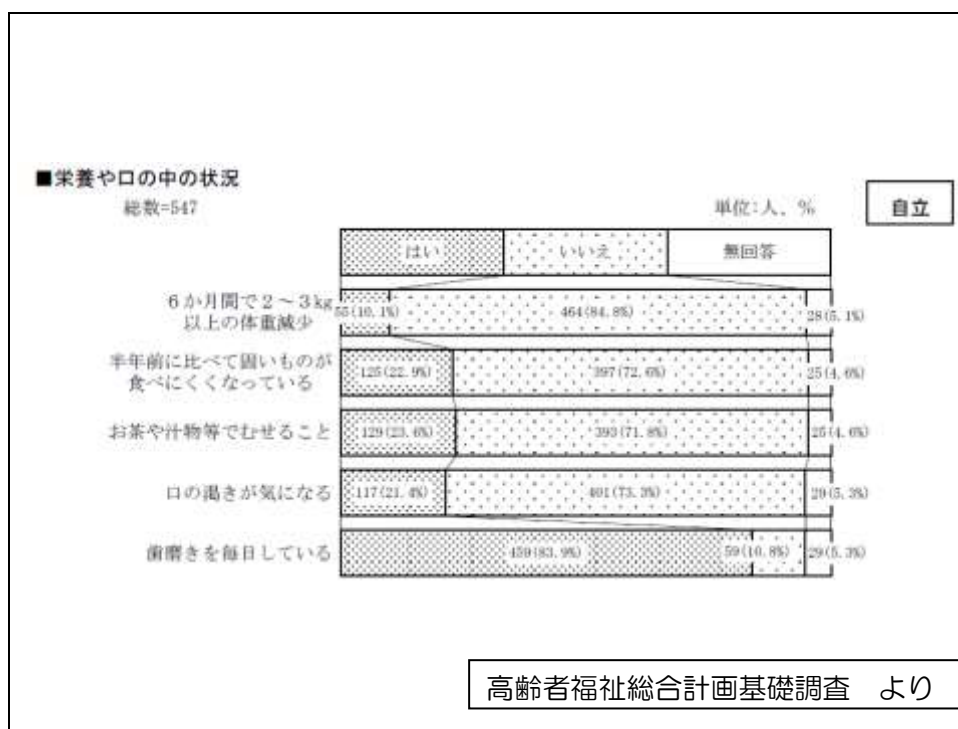
【高齢期・障がいのある方も含む】自分にあった口腔ケアを実践し、しっかり噛める歯を保ち食事を楽しむことをすすめます

1

市の現状・課題

1. 口腔機能の維持・向上

自立した高齢者の方でも、栄養や口の中の状況について「半年前に比べて固いものが食べにくくなっている」または「お茶や汁物等でむせることがある」など、口腔状態に関して不満を持っている方が2割います。加齢とともに飲み込む機能は低下するため、適切な口腔ケアを実施し機能を維持していくことが重要です。

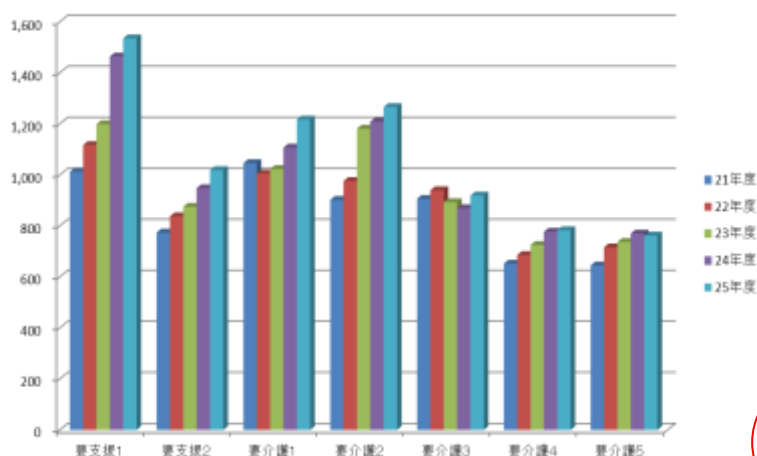


大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

日野市の要介護認定者は年々増加しています。要介護者の18%が食べる機能や飲み込む機能に障害（摂食・嚥下障害）があるといわれています。今後、要介護者の増加とともに、機能面に障害を有する方も増加することが予想されます。機能が低下すると、食べることや飲み込むことが困難になります。そのため、低栄養や誤嚥性肺炎を引き起こす可能性があります。機能低下が重度となる前の軽度のむせなどの症状で自覚し、予防していくことが重要です。機能低下に対する予防対策や、摂食・嚥下障害になってしまった方の支援体制を構築する必要があります。

日野市の要介護認定者数

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
要支援1	1,012	1,117	1,199	1,464	1,535
要支援2	774	838	875	948	1,019
要介護1	1,046	1,005	1,023	1,107	1,217
要介護2	902	976	1,181	1,209	1,266
要介護3	906	940	893	869	919
要介護4	652	686	725	777	783
要介護5	645	716	737	770	762



要介護高齢者数 × 18% = 摂食・嚥下障害推定数

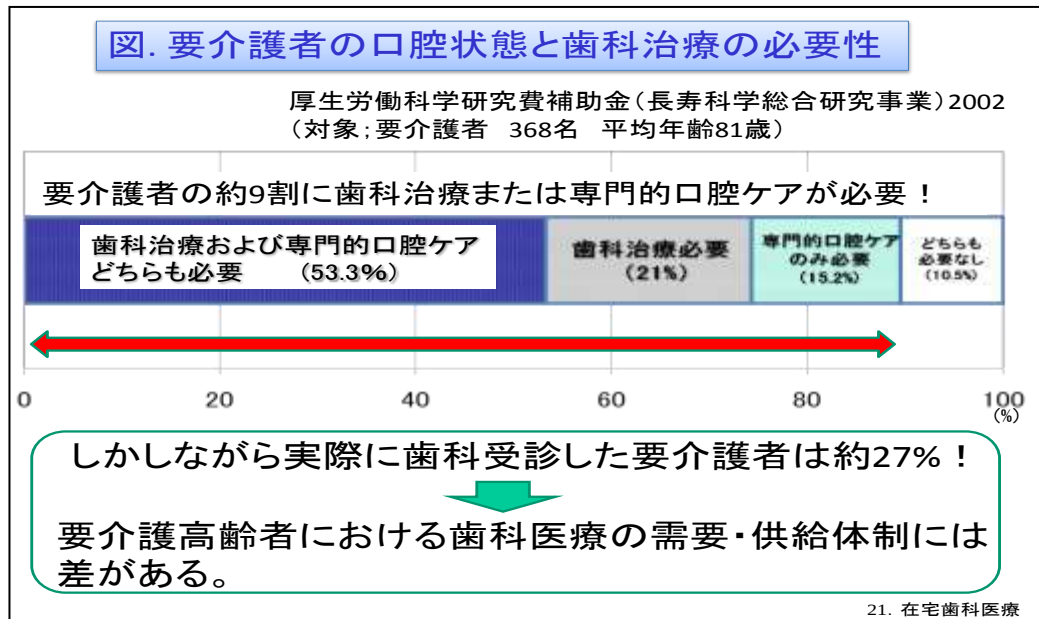
※平成17年度北海道保健福祉部「要介護者に対する摂食嚥下障害者対策実態調査」より

平成25年度
1,350人

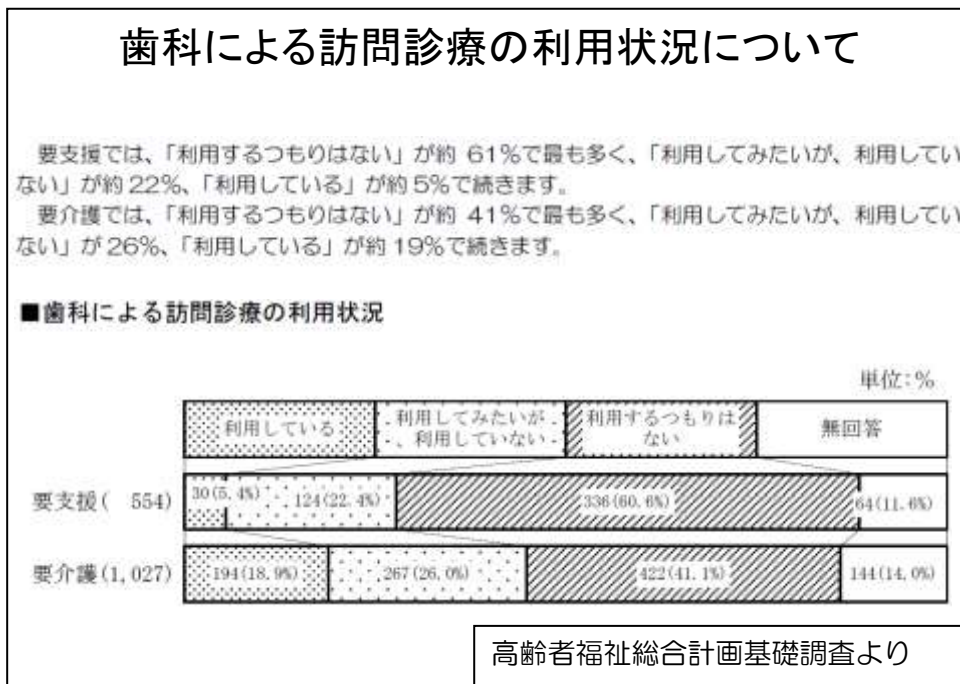
大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

2. 自身の口腔状態を把握し、適切な口腔清掃方法の獲得の支援

厚生労働省の研究では、要介護者の約9割に歯科治療または専門的口腔ケアが必要という結果が示されています（歯科治療および専門的口腔ケアどちらも必要 53.3%、歯科治療が必要 21%、専門的口腔ケアのみ必要 15.2%）。しかし、実際に歯科受診をした要介護者は約27%で、要介護高齢者における歯科医療の需要・供給には差があることがわかります。



日野市の歯科による訪問診療の利用状況は、要支援・要介護ともに「利用している」方が2割以下です。日野市においても、要支援・要介護の高齢者に対する歯科医療の提供が遅れていることがわかります。



大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

要介護者に対する口腔ケアの必要性や歯科診療の普及状態についての現状を受け、日野市では障がいをお持ちの方や寝たきりで通院困難な方に対し訪問歯科診療が可能な歯科医師の紹介を行っています。実施状況としては、年間で申請が100件前後です。

要介護者や障がいをお持ちの方に痛みや支障が出る前に介入し口腔状態を把握していくことが重要です。そのためには、行政の力だけでは限界があり、家族やヘルパー等地域の理解や協力が不可欠となります。

2

今後の取り組み

1. 飲み込む機能が低下してしまった方への支援体制を展開します。
2. 口腔状態について把握し、地域全体でフォローできる体制づくりを展開します。
3. 歯を多く残し、食べる機能を維持するために口腔清掃方法について知識の普及・啓発に取り組みます。

3

推進方法

大目標4 住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します
により評価します。(P85、86 参照)

今後は、要介護者や障がいをお持ちの方の口腔状態の把握や支援について、地域包括ケア体制（多職種間の各役割と協働体制）の構築とともに検討していかなければなりません。地域包括ケア体制のなかで支援することで、医科歯科連携だけではなく福祉分野や介護分野を含めた総合的支援となり、住み慣れた地域で健康な生活を送ることにつながります。

大目標3 歯とお口の健康づくりを推進します

歯と口腔の健康づくりを含めた日野市版地域包括ケアシステムのイメージ図より

